



白蛇辨財天は、^{むろまち}室町時代の^{たいえい}大永2年（1522年）に^{あき}安芸（^{みやしまいつくしま}広島県）の^{みやじま}宮島^{しづしま}厳島より、^{ごぶんれい}御分霊（^{みたま}神様の御霊を分けて別の場所にもってくる）し、^{まつ}お祀りしたと伝えられています。白蛇辨財天がある場所は、古くは^{ふるいけがらち}古池ヶ渚と呼ばれ明治時代の中ごろまでは昼でも暗く、女性や子どもには^{こわ}怖い感じがする場所だったよう

です。この場所には、^{しろへび}白蛇が2匹住んでおり、2匹の白蛇は良いことや悪いことが起きるときに姿を現したといわれています。また、^{しんこう}信仰する人々はこの白蛇の前もって物事を知る予知の能力と辨財天の^{かご}ご加護によって、^{わざわ}災いをまぬがれ、^{やまい}病を^い癒やされ、^{とみ}富を^{きず}築いたといわれています。



参拝者を迎える白蛇



銭洗いの瀧